

## 「すべての世代がつどう公民館を目指して」

### 【協議テーマの選定理由】

公民館は地域住民にとって最も身近な学習拠点というだけでなく、交流の場として重要な役割を果たしています。

公民館においては、住民の学習ニーズや地域の実情に応じた多様な学習機会の提供が行われています。さらに、今後は、社会の要請に的確に対応した取り組みや、子ども若者や、働き盛りの世代も含めて、地域住民全体が気軽に集える、人間力の向上などを中心としたコミュニティ（地域社会）のためのサービスを総合的に提供する拠点となることが期待されています。

しかしながら、現状を見ると公民館利用者の高齢化が進み、小学生以下の利用はあるものの中間世代の利用が少ない状況にあります。

その理由として、公民館活動に対して強い関心と興味を持って参加する人たちがいる一方で、若い世代を中心に公民館活動への関心を払わない、あるいは関心があっても参加する時間がない、方法を知らないという人たちが増えている状況が考えられます。

そのような中で、今後、指定管理者と連携しながら「すべての世代がつどう公民館」を目指していくため、現在あまり利用していない人たちへのアプローチ方法等について協議することとし、テーマとして設定しました。

### 《現在公民館をあまり利用していない世代は？その原因は？》

#### 【学生（中学生・高校生・大学生）】

- ・年齢が上に上がるほど、生活圏や活動範囲が広がり、地域ではなくなっていく。

#### 【勤労世代】

- ・平日は仕事に時間がとられ、あまり地域に目が向かない。

#### 【今まで地域とかかわりがなかった退職した世代（特に男性）】

- ・特に男性は、社会人をやっていて退職してから、公民館（地域）に入ってくるのはきっかけが難しい。

#### 【共通】

- ・広報等を全く見ない人がいるので、興味がありそうな講座等を企画しても、情報を目にしない。
- ・公民館という存在を知らない。公民館はこういうところだという情報発信が足りない。

## 《現在公民館をあまり利用していない人たちへのアプローチ方法は？》

### 【公民館を知るきっかけづくり】

#### 公民館を知らない人、関心のない人への情報発信

#### 関心のない人に情報がいきわたる工夫、PR方法は？

- ・年1回公民館の講座やPRするような保存版の冊子を配布する。  
→3月とか4月に配布すれば、退職してこれから何かを始めようとしている人も活用できる。
- ・利用者からの口コミ。  
→今利用している人たちに有効な情報を流すことで、利用していない家族等へつなげる。
- ・子どもの発表や展示を行う。  
→子育て世代（勤労世代）が見に来るので、公民館に足を運び、知るきっかけになる。また、来た時に子どもの発表等とは別に、親が興味を持ちそうな展示や配布物等情報提供ができること勤労世代の参加へもつながる。
- ・ニーズに見合った場や使い道があることを知らせる。  
→生活圏や活動範囲が離れがちな学生であっても、近くて安く利用できるサークル活動の場、勉強を教えてくれる等のニーズに見合った場や使い道があることを知ることができれば、休日や夜間の利用拡大の可能性も考えられる。
- ・インターネットでの情報発信を工夫する。  
→中高生は、インターネットでの情報収集が中心となるため、中高生の検索に引っかかる工夫をしたり、メール配信等を活用することで情報を目にする機会を増やすことができる。
- ・学区の学校へ公民館の存在をアピールする。  
→学区の学校へ公民館を見学してくれるよう話しかけることで、来てもらう機会が増え、公民館を知ってもらうことができる。

## 【公民館へ足を踏み入れるきっかけづくり】

### 公民館に行きやすく、入りやすい雰囲気づくり

#### 1 人でも気軽に立ち寄れる公民館は？どんなサービスや働きかけがあれば行きたくなるか？

- ・ウォーキング等の休憩場所として利用できる。  
→ウォーキング等の際にトイレの利用やのどが渴いたときなど立ち寄って休憩したりできる。冷水等のサービスがあるとなおよい。
- ・掲示板等の活用  
→館外の掲示板等を利用して外を歩いている人たちに今日の催し等魅力的な情報をPRすることで、立ち寄るきっかけにつながる。
- ・ロビー等で気軽に見学や参加ができる催しの実施  
→休みの日など親子で気軽に立ち寄れて、実際に雰囲気を見てもらうことで活動に広がる。

## 【公民館活動を行うきっかけづくり】

### 公民館講座やサークル活動に参加するきっかけ

#### 公民館活動へと導く働きかけ、取り組みは？

- ・サークル活動が気軽にのぞけるサークルをオープンにする期間があるといい。  
→気軽にサークルの状況を知ることができ、自分に合った活動を見つけることができる。
- ・親子で参加できる事業を開催する。  
→子どもと一緒に参加することで子育て世代は参加しやすくなる。また、休日に開催すれば父親の参加も望める。
- ・アンケートを取って、やりたいことや入りたいサークルなどニーズを把握する。  
→より利用者のニーズに合った事業を開催でき、参加者も望める。
- ・サークルが立ち上がるような講座を開催する。  
→新しいジャンルの講座を開催することで、サークルが立ち上がり、継続的な利用が見込める。
- ・小中学生が興味を持ちそうなものを特化したPRを行う。  
→子どもたちは、広報等の一律の情報は見ないため、学校でやっていることの発展した講座や授業と関連した学校では見られない物の展示など興味を持ちそうな情報を特化してポスター掲示などすることで、より目に触れやすくなり、講座等への参加につながる。